

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第61版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

育ちを支える

沖縄市にある、「こぼと保育園」様の新園舎にお伺いさせて頂きました。

子どもたち同士の関わりの中から発達を保障することを大切にしている為、0・1歳児クラス、2歳児クラス、3歳以上児クラスと異年齢での関わりが大事にされていました。

また、起伏のある園庭は一階の乳児室や、二階の部屋からもどこからでも出られるようになっていて、一階の乳児室寄りの園庭では小さい子どもたちが、大きい子どもたちに邪魔されることなく、芝生に座り込んだり、寝転んだりとゆったりと遊べる環境が保障されているのが印象的でした。

園庭も奥に行くにつれて起伏があり、その地形がバラエティ豊かな遊びの環境を保障しています。

園長の津嘉山先生は「危険回避の気づきも体力も、大人



年々充実させていく計画です！

が教えたり、訓練してつけさせるのではなく、子どもたちが遊んでいると自然と気づきや体力がつくような、そんな狙いを込めて作っているんです。一年目なのでまだまだこれからです！」と仰います。先生の言葉の中には、環境を用意すると子どもは発達する」という子どもに対する信念を感じました。

「意欲」「発達」は本人が自ら掴み取るもの。私たちクルーも「子どもたちの発達を邪魔しない環境づくり」を大切にしていきたいと思えます。

また今回、ギビングツリーのドイツ環境視察研修に園長の大竹先生が参加されたこともあり、研修での気づきをお聞きしました。大竹先生からは「これまで他の方のドイツ報告を聞いたり藤森先生からもお話は伺っていましたが、体験することで、ああ、そういうことか」とこれまで自園で実践してきたことの意味や気づき

体験を活かす

先日神奈川県横浜市にある、「ギズビレッジつくし保育園」様をご訪問させて頂きました。園舎はドイツの環境をモチーフに設計され、14年前に建てられたそうです。

園舎の設計を担当した設計士の方は実際にドイツへ行かれ、その方にとってもギズビレッジつくし保育園は思い入れのある園のようで、現在は設計を学ぶ学生とともに、園舎の見学に来られることもあるようです。

園内ではこれからドイツ報告を行い、園の先生方とも新たな実践が始まります。私たちも大竹先生のように自分で体験することを大事にし、これからの実践に繋げていきたいと思えます。

また今回、ギビングツリーのドイツ環境視察研修に園長の大竹先生が参加されたこともあり、研修での気づきをお聞きしました。大竹先生からは「これまで他の方のドイツ報告を聞いたり藤森先生からもお話は伺っていましたが、体験することで、ああ、そういうことか」とこれまで自園で実践してきたことの意味や気づき



1階と2階の間にある中2階の遊びスペース
左) 大人はしゃがまないと通れない高さ。子ども達には隠れ家でもあります。
右) 中2階にある回廊。子どもたちが下の様子をのぞき込むことができます。

初心にかえり、振り返る

7月7日からギビングツリー主催の第35回保育環境セミナーが開催されました。

全国から沢山の先生方がお集まりくださり、セミナープログラムはもちろん、夜の懇親会まで先生方同士が情報交換し、盛り上がった3日間でした。

今回は、島根県の「原浜保育所」様、石川県の「和光第二保育園」様、鹿児島県の「竹之迫保育園」様の3園の先生方より自園の保育実践をご紹介頂きました。

園様の発表の中に、「他園との交流保育や研究会を行い、自園を違う目線でみることによって、普段自分たちが思っていたことよりも、新しい気づきがある」というお言葉がありました。

また、今回の発表自体も、「発表」という機会を活かし、自身の保育を振り返り、

「子どもたちを信じて見守れていたのだろうか」と向き合われているお姿がとても印象的でした。

ともすると、自分の姿を見つめ直したり、他の人に見せるといふことに不安を感じてしまいがちですが、「初心にかえり、振り返ることができるとワクワクしながら話し、発表下さった先生方のお姿に、日々挑戦していく勇気を頂いたと感じています。

私たちも初心を忘れず、自身に向き合い、挑戦することで生まれる気づきを大切にしていきたいと思えます。

また、今回の発表自体も、「発表」という機会を活かし、自身の保育を振り返り、



GT会員ページにて、実践園発表の動画を配信中です。

右: 懇親会の様子

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

クッキー作り

園にお伺いする際にお持ちしている玄米クッキーですが、この「クッキー作り」はカグヤの大切な文化となっております。

今月も週始めから出張するクルーが、その前の休日に子どもを会社に来てきて、一緒にクッキー作りを楽しんでいました。父が生地を伸ばし、娘が型を抜くなど、共同作業は手慣れたものです。

また、別のクルーはパートナーの方から頂いたお土産にヒントを得て、今回「生姜はちみつクッキー」と「珈琲玄米



社内で子どもと一緒にクッキー作り!



新作クッキー用に生姜汁を絞っています。



珈琲色をした香り豊かなクッキーです。



ラベル新たに!

クッキー」という新作を2品誕生させました。さっそく味見をしたクルーからは「うん、生姜の味。珈琲の味がする!」と好評でした。袋詰めする際に使用するラベルも新しくなり、生姜の効能や珈琲のこだわりもラベルに書き添えることになりました。

いつも同じことの繰り返しでは、ただの作業になってしまいがちだからこそ、そもそも何のための実践なのかを思い出し、工夫・発展させる楽しさや、豊かな時間を感じるこの大切さを玄米クッキー作りは教えてくれています。

草刈り

5月に田植えをした藤崎農場様で、先日草刈りを行いました。

炎天下での草刈りは、想像以上に大変でしたが終わってみると心地よい疲れでした。それもこれも、藤崎様やスタッフの方が、長めの休憩や、ある程度時間で切り上げるよう、積極的に声を



初めての田んぼの草刈り!



冷たいきゅうりに心も体も癒されました!

かけて下さったり、冷たい飲み物やきゅうり、アイス等、体が冷えるものを用意して下さいと、私たちが無理なくできるよにとの、さりげない配慮や見守りのおかげでした。

また本来草刈りは、田植えから間を空けなければ、それほど労力は必要ないところを、今回のようにタイミングが遅れると草がグングン育ち、大変になることも教えて下さいました。

何事も最初の時期やタイミングが大事であることを体感し、改めて見守ることの難しさや大切さを学ばせて頂きました。

小さなお客様

カグヤに小さなお客様がやってきました! 藤崎農場様の水田にお住いのミドリガメの亀子です。

早速バケツのゲストルームを用意してお迎えしたのですが、小さな手足をめいっぱい伸ばし高い壁をよじ登ろうとする姿を見て、気遣いの足りなさを痛感。

遠路はるばるやってきた、手のひらサイズのお客様をもてなすため、大急ぎで社内の一角に段ボールでお手製の新居

一期一会庵

樹木の共生

先日、森林インストラクターで樹木に関する数々の著書を手掛ける渡辺 夫先生に会社していただき社内研修を行いました。秋には山を散策しながら樹木の戦略についてなどのお話をお聴きできることになり今からワクワクしています。

そもそも樹木というのは、私達人間が生きていく上では必要不可欠の存在です。樹木がいなければ地球の酸素はつくりだせず私達動物も生きていくことはできません。木を見て森を観ずの逆ではないですが、森をみて単に木があるのではなくその森と呼ぶ山の中には本当に沢山の種類の樹木たちが共生しているのです。

今回の学びでは『共生』についての考え方を改めるきっかけをいただきました。お話の中でイチジク(クワ科イチジク属)は、イチジクコバチ(類)と呼ばれる小さな蜂(花粉の媒介者)がペア(組)でいるそうです。そして、イチジク

をつくることにしました。

小さなお客様に寛いでいただけるとドキドキでしたが、どうやらお気に入り場所をすぐに見つけたようです。

これからも常に「おもてなしの気持ち」を大切に、誰もが居心地のよいカグヤをつくっていききたいと思えます。



新居には水辺に縁を添えて

の種ごとに二つ二つ異なるイチジクコバチ類がいて、お互いに繁殖するために共生関係を結んでいます。このどちらかのペアがもしもいなくなればその種も類も互いに絶滅してしまうそうです。

ここから分かるのは本来の『共生』とはお互いになくしては生きていけないほどの運命共同体のことをいうのです。つまりお互い共生し延びるためになくしてはならない絶対的な関係(存在)ということなのです。

自然環境を考える時、森林破壊とか色々と問題になりますが、もう一度『共生』の意味とは何か、当たり前を学び直し、子どもたちの未来のお手本になるような生き方をしたいと思えます。

編集後記

今月も皆様の沢山の実践から学ばせて頂き、おかげさまで新聞ができあがりました。最後まで竹取新聞をご覧頂きまして、誠にありがとうございました。

まだまだ暑い日が続きますので、皆様どうぞご自愛下さいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

☎フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月~金 9:00~18:00
(土・日曜祝祭日を除く)